

IV. 地域まちづくり方針

1 策定の趣旨

合併によって東西 30km南北約 40km、区域面積 552km²を有することとなった本市は、地形的な特性や歴史的な沿革、さまざまな市民生活の営みにより、生活文化や市民意識など社会的、経済的、文化的な特性を有するそれぞれの地域で形成されています。

住みやすく、質の高いまちづくりは、最も身近な生活の場であるこうした地域づくりから始まります。

この地域まちづくり方針は、上田市総合計画の一部として、自然や文化などそれぞれの地域の特色や個性を生かしながら、市民と行政が連携して住みよい地域づくりを進めるための方向を示すものです。したがって、内容的には行政活動だけでなく、市民が自主的に進める各種の地域活動や、市民と行政との協働によって実現していくべきものも含まれた、地域と行政の共通目標としての性格を持つものです。

2 地域区分と策定の手順

地域まちづくり方針の地域区分は、下記九つの地域協議会の区域としました。また、策定の手順としては、市長が各地域協議会へ諮問したうえで、基本構想・基本計画との調整を図り、上田市総合計画の一部として位置付けることとしました。

地域の名称	地域協議会	区 域
上田中央地域	上田中央地域協議会	東部・南部・中央・北部・神川地区
上田西部地域	上田西部地域協議会	西部・塩尻地区
上田城南地域	上田城南地域協議会	城下・川辺・泉田地区
神科・豊殿地域	神科・豊殿地域協議会	神科・豊殿地区
塩田地域	塩田地域協議会	東塩田・中塩田・西塩田・別所温泉地区
川西地域	川西地域協議会	川西地区
丸子地域	丸子地域協議会	丸子地区
真田地域	真田地域協議会	真田地区
武石地域	武石地域協議会	武石地区

3 構成

(1) 地域特性と発展の方向

地域まちづくり方針を定めるにあたって押さえておくべき地域の特性と、今後の方向性を概括的に示すものです。

(2) 地域まちづくり方針

上記発展の方向を具体化していくために必要と思われる主な取組を示すもので、市民、行政、更に市民と行政の協働によって実現していくべき共通目標として位置付けるものです。

4 期間

第一次上田市総合計画の基本構想と同様、8年間(平成20年度～27年度)とし、基本計画の目標年度(平成23年度)に合わせて見直しも検討します。

地域協議会への諮問と答申について

1 諮問の具体的内容

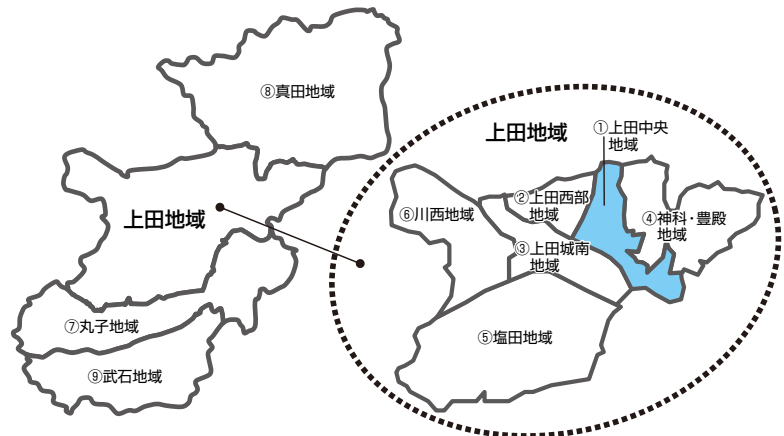
自然や文化などそれぞれの地域の特色や個性を生かしながら、市民と行政が連携して住みよい地域づくりを進めるための方向を示す必要があるため、各地域協議会ごとに、新市建設計画の内容を踏まえた上で、地域まちづくり方針として盛り込むことが望ましい事項について諮問しました。

2 諮問・答申の経過

地域協議会	諮問	答申
上田中央地域協議会	平成18年12月18日	平成19年2月9日
上田西部地域協議会	平成18年12月18日	平成19年2月9日
上田城南地域協議会	平成18年12月21日	平成19年2月9日
神科・豊殿地域協議会	平成18年12月20日	平成19年2月9日
塩田地域協議会	平成18年12月21日	平成19年2月9日
川西地域協議会	平成18年12月19日	平成19年2月9日
丸子地域協議会	平成18年12月20日	平成19年2月9日
真田地域協議会	平成18年12月25日	平成19年2月9日
武石地域協議会	平成18年12月21日	平成19年2月9日

5 地域まちづくり方針

(1) 上田中央地域



ア 地域特性と発展の方向

上田中央地域は、上田駅を中心に市街地が形成された本市の玄関口となる地域です。また、上田城跡や信濃国分寺など上田市を代表する歴史的遺産を擁した市の中心地域です。市の玄関口としての都市機能の充実と市街地の活性化を総合的に推進し、歴史的資源や豊かな自然環境を保全・活用したにぎわいと交流の拠点にふさわしい、市民や来訪者が行き交うまちづくりを目指します。

また、大学との連携や市民との協働により、新産業の創出を展開します。



上田駅温泉口広場

イ 地域まちづくり方針

①新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化

新市の中心に位置する中央地域の都市機能を高めるため、上田駅周辺を活力あふれるにぎわいと交流の拠点とする整備の在り方を研究し、市街地の活性化と商業の振興を一体的かつ総合的に推進します。

また、都市環状道路や上田駅を基点とする交通網などの基盤整備を行い、地域内の人・物・情報の循環と他地域との交流を促進する

とともに、地域内の振興のため、公共施設の立地や「街なか」居住を推進します。

②歴史的な資源を保全・活用したまちづくり

上田城跡公園、国分寺史跡公園、旧北国街道など数多く残る歴史的な資源の価値を再認識し、保全するとともに、こうした資源を活用したまちづくりと観光振興を図ります。

また、歴史的無形文化財ともいふべき、旧町名、字名の研究と認識を深め、地元住民の意見を聞きながら、後世に残す方法を検討します。

③市民や来訪者が安心して行き交うまちづくり

地域の交番や防犯関係団体、ボランティア、PTAなどの連携により住民の安全意識の高揚を図り、地域ぐるみの防犯対策を推進します。

また、地域住民はもとより観光客などの来訪者が安心して行き交うまちづくりを進めるとともに、もてなしの心を養い、歓迎する気持ちが伝わるまちづくりを協働により進めます。

④自然環境の保全と共生によるまちづくり

特色ある景観と恵みをもたらしている神川、矢出沢川や染屋台の斜面樹林などの河岸段丘を保全し、水辺空間や豊かな自然を活用した地域づくりを進めるとともに、治水、農村風景にも配慮したまちづくりを進めます。

また、花と緑があふれ、歩いて楽しいときめきのある空間の創造に努めます。

⑤保健福祉活動拠点の整備と人的資源の活用

少子高齢社会に対応した保健福祉施策や子育て支援施策の推進、あらゆる世代の健康増進や地域福祉の推進等、幅広い機能を備えた基幹保健センターの整備を進め、上田市全体の保健福祉ネットワークを充実させていきます。

また、子どもがのびのびと成長できる、高齢者・障害者にやさしいまちづくりを進める

とともに、住民との協働による福祉活動を推進します。

⑥地域コミュニティを中心とした協働による地域を誇れるまちづくり

複雑多様化する地域課題を適切に解決していくため、住民・各種団体・行政の協働による新たな地域づくりが必要になっています。

自治会をはじめとした各種団体、個人などが各種地域課題への解決に向けた対応や生涯学習などへ積極的に参加できるよう支援するとともに、人材発掘・人材育成にも取り組み、共助、協働による地域づくりと地域住民が誇れるまちづくりを進めます。

⑦産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興

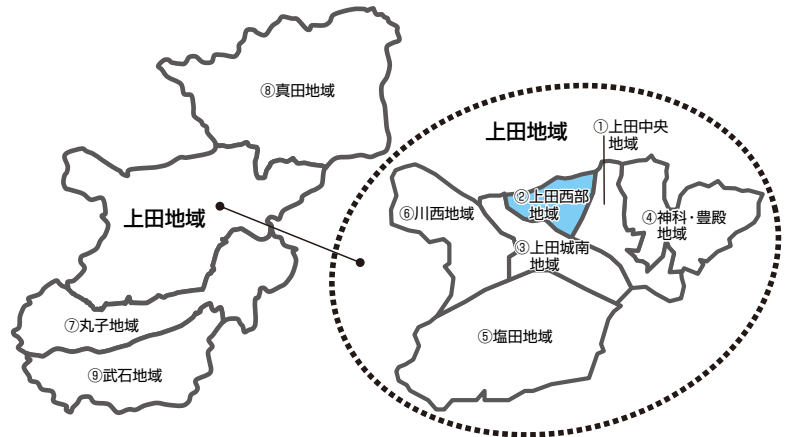
産学官連携支援施設との連携を通じて、大学や市民などとの協力体制を強化するとともに、新技術・新産業創出に向けた取組を展開し、更に、近郊農業の生産意欲の高揚にも努めます。

また、農民美術や上田紬など歴史的文化に触れながら、地域に伝わる伝統工芸の振興と後継者の育成、技術の継承を図ります。



信濃国分寺三重塔

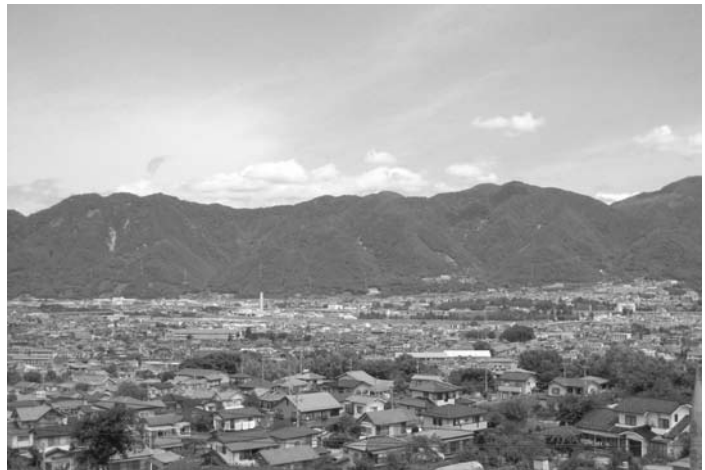
(2)上田西部地域



ア 地域特性と発展の方向

上田西部地域は、太郎山山系から千曲川に広がり、中心を国道と鉄道が通過しています。歴史的建造物や閑静な住宅地、中小の商店や工場、卸団地などが田園空間に混在する地域です。快適な住環境を創出するとともに、世代を超えた連携による防犯力や子育て力などの地域力を高めます。

また、住民を地域全体で支え、だれもが安心して暮らせる人に優しいまちづくりを進めます。更に、恵まれた自然環境や歴史的遺産などを保全し、住民のコミュニケーションを図りながら、住民参加によるまちづくりを進めます。



地域を見下ろす太郎山と虚空蔵山

イ 地域まちづくり方針

①歴史的遺産の積極的な活用による地域の振興

西部地域を横断する旧北国街道沿いには、蚕室造りの家並みと街並み、真田氏ゆかりの史跡や歴史の散歩道などに代表される歴史的な財産や資源が豊富にあります。こうした歴史的遺産を後世に継承することが重要です。住民自らが地域の歴史を知ることによって、住民参加型の地域資源の保全と利活用を図ります。

②地域が誇れる自然環境の保全と有効活用

太郎山や虚空蔵山、千曲川や矢出沢川などに囲まれた、自然あふれる里山と住宅地とが調和した景観に恵まれています。

地域の防災機能の強化を図りながら、矢出沢川沿いの遊歩道、公園、旧北国街道、歴史の散歩道をつなぐトレッキングコースを設定し、新たな観光資源の創出や健康づくりなどへ活用します。

また、桜づつみホテル水路を始め、自然とのふれあいの場を整備し、自然を生かした地域の活性化を図ります。

③地域防犯力による安全で快適なまちづくり

「児童見守り隊」や「はぐくみ隊」等、先進的な取組と実績を生かし、地域・行政・警察などとの連携により「地域防犯力」を高め、「温かいまなざしが深まる地域」として、安全に暮らせるまちづくりを推進します。

また、「あいさつの飛び交う地域づくり」を進めるとともに、道路沿いの花づくりや緑化、幹線道路の渋滞解消など安全で良好な地域生活環境を目指します。

④多様な地域の資源を活用し、将来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てるまちづくり

自然に親しみ、郷土の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りを持てる子どもたちを育てます。

更に、学校と連携し「地域子育て力」を高め、子どもたちの明るく元気な声がまち全体に響き渡り、子どもがたくましく生きるまちづくりを進めます。

⑤世代間交流が活発に行われ、コミュニティの確立を目指すまちづくり

少子高齢化、核家族化が今後ますます進むことが予想される中、住民の共助により地域

の課題を解決することが重要です。

スポーツや遊びなどを通じ、子どもからお年寄りまで世代を超えた交流を深め、「地域連帯力」の向上とコミュニティの活性化を図ります。

⑥地域が一体となり高齢者や障害者を支え、だれもが安心して暮らせるまちづくり

市の産院、長野病院などの医療機関の充実に向けた施策を展開することが重要です。

自治会をはじめ NPO やボランティア団体などを核として、住民と関係機関との協働により更なる福祉活動を展開します。

また、高齢者や障害者を地域全体で支え、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

⑦地域の特色を生かした産業の振興

地域に根ざした商工業の発展と高齢者や障害者などへの対応を視野に、日常生活に必要な地元商店の振興にも取り組みます。

また、地産地消を推奨し、各種団体と協力した地域ぐるみの農業生産活動を促進します。



映画ロケ地となった矢出沢川沿いの風景

(3) 上田城南地域



ア 地域特性と発展の方向

上田城南地域は、国道 143 号、主要地方道上田丸子線、都市環状道路、更には上田電鉄別所線が通り、農地と新興住宅地が混在した地域であり、幹線道路の整備に伴い、商業施設などの集積と宅地化が見込まれます。

地域振興・地域防災の視点により、安全性に配慮した交通機能の整備と医療、福祉サービスの充実を促進し、地域ぐるみで子育てを支える地域コミュニティ意識の更なる醸成を基本とした、持続的に発展するまちづくりを進めます。

また、歴史的遺産や原風景の残る里山、豊かな自然や農地を保全し、後世に継承します。



岩鼻トンネル

イ 地域まちづくり方針

① まちづくり活動拠点の整備

地域自治センターの機能の一つである地域の「まちづくり活動拠点」として、城南公民館を位置づけるとともに、地域住民の主体的な活動を支援し、住民や活動する団体による住民自治の実践の場として整備を促進します。

また、地域住民が抱える課題に対して協働で解決していく地域力を向上させ、地域コミュニティ拠点として地域の豊かな人間関係と住民活動を支えます。

② 「上田 道と川の駅」を活用した地域振興と地域防災拠点づくり

都市間の連携の強化を目指し、国道 18 号 上田坂城バイパスの建設を促進するとともに、広域的な交流拠点となる「上田 道と川の駅」の整備を推進します。

また、地域の PR と情報の受発信源としての機能や地域防災機能を併せ持つ、周辺自然環境と調和した拠点として位置付け、にぎわいを創出します。

③人や自然にやさしい交通機能の整備

国道143号の近接地域は、周辺住民の生活支援機能を保有する商業ゾーンであるとともに、広域的連携機能を有した地域でもあり、交通量が増加しています。

国道143号や周辺道路の機能強化に加え、子どもやお年寄りなどの交通弱者の安全性や快適性に配慮し、地域住民が安心して暮らせる生活環境の確保など、他地域との連携のもと、やさしいまちづくりを進めます。

また、地域交通の要となる別所線の利用を促進させ、別所線沿線や駅周辺駐車場などの整備を進め、観光の振興を図ります。

④地域医療体制と保健福祉施設の整備

千曲川左岸地域の中でも、宅地化や人口の集中化が進んでいる地域であり、総合的な福祉及び保健・医療サービスの提供が求められています。

全国的な医師不足の状況下において、医療提供体制を確保するため、医療機能の役割分担と連携を推進し、現有する施設も有効に活用しながら、安心して医療が受けられる体制づくりの促進と保健福祉施設の整備を図ります。

⑤地域で子どもを育てるまちづくり

城南地域は、小学校区を単位として児童館、児童センター、こども館、学童保育所などさまざまな子育て支援施設が整備されています

が、施設によっては狭小、老朽化などいくつかの課題があります。

これら施設の改善を検討するとともに、住民の協働により、地域ぐるみで子どもの安全と成長を支えていくまちづくりを目指します。

また、子育ての不安解消や子どもを育てる力の向上を図るため、ニーズやバランスを考慮しながら、子育て支援の拠点となる施設や広場などの整備を目指します。

⑥自然との共生を目指す里山の再生と農地の保全

自然環境に恵まれているこの地域は、宅地化が進行する一方で、優良農地が保全されている地域でもあり、豊かな自然を次世代に継承していかなければなりません。

千曲川をはじめ産川や浦野川、小牧山や半過岩鼻の奇景、自然豊かな須川地区などの景観を守り、更には優良農地を保全し、人と自然との調和したまちづくりを目指します。

⑦歴史的・地域的資源の保全と活用

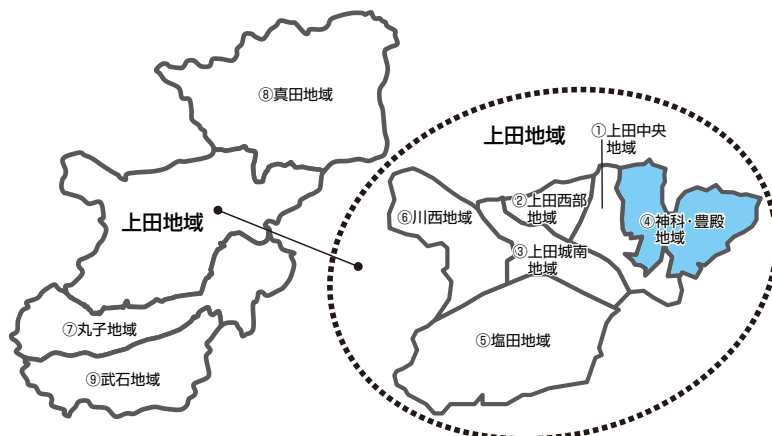
地域の神社仏閣や市有文化財、蚕室造りの民家、更には戦国時代の武士の夢の後である上田原合戦地など、数多くの歴史的遺産があります。

これら貴重な遺産を「地域の宝」として、まちづくりに生かします。



上田原古戦場碑

(4)神科・豊殿地域



ア 地域特性と発展の方向

神科・豊殿地域は、上信越自動車道上田菅平インターを中心とした、新市の玄関口となる地域です。また、国道や県道・浅間サンラインなど広域的に地域間を連絡する幹線道路網の結節点に位置しています。

本地域では、広域的な交通機能の充実を図り、地域にある自然や景観を大切に、貴重な資源を活用しながら、子どもから高齢者まで安心・安全な住みよい地域づくりを進めます。



上田ローマン橋

イ 地域まちづくり方針

①地域の交通ネットワークの整備促進

上田地域 30 分（サンマル）交通圏構想の実現のため、広域的な地域間連絡道路である国道 144 号の一層の改良促進と国道 18 号上田バイパス第 2 期工区先線の整備促進、県道下原大屋停車場線・小諸上田線・矢沢真田線の改良促進及び上信自動車道の整備促進に向け、地域住民一体となった運動を展開します。

また、安心・安全な住民生活の利便性向上を目指し、幹線道路網整備に併せて地域内道路の整備に努めます。

②地域の公共交通と、将来に向けた地域循環バス等新たな地域内交通の充実

新市の公共交通活性化プラン策定に併せ、地域内交通の再検討を行うとともに高齢化社会に対応するため、地域のニーズに即応した公共交通の在り方を研究し、地域内交通の充実に努めます。

③地域に根ざした医療・福祉の充実と地域内ボランティア活動の充実

高齢者や障害者を含め住民が安心して生活できる地域づくりを進めるため、地域内の福祉施設や医療機関との連携を図るとともに、地域住民の主体的な意思によるボランティア

活動を展開し、地域住民を地域住民全体で支える福祉の視点に立ったまちづくりへ積極的に取り組みます。

また、高度医療施設の更なる充実に協力し、地域と行政が連携して周辺地域も含めた地域内の医療提供体制の構築に努めます。

④神川河川流域の保全整備

豊かな自然景観と水の恵みをもたらす神川は、文字どおり「神の川」であり、地域の貴重な財産として、後世に大切に残す必要があります。

地域住民自ら水質浄化に努め現状を検証し、地域の子どもたちが安心して自然に親しめる環境にするため、親水的な施設整備を目指します。

⑤地域の子どもの安全と育成活動の充実

地域の子どもたちがのびのびと安心して活動できるよう「こどもを守る安心の家」や「見守り隊」など地域ぐるみの防犯体制を確立し、併せて通学路の街灯や歩道の整備促進を図ります。

また、地域と家庭、学校の連携により、心

身とも健康で感性豊かな子どもに育つよう、地域の子ども育成活動を積極的に推進します。

⑥地域の農業振興と地域内の財産・資源の活用

適地適作を推進し、特色ある農業振興を図るため、農業後継者の育成や新規就農者の受入れを推進し、地域の優良農用地の遊休荒廃化を防ぎます。

また、「砥石米山城跡」や「市民の森」「稲倉棚田」「麻蒔^{あまき}リンゴ園」など魅力的な地域の財産や資源を大切にし、体験と滞在型の観光客誘致に努めるとともに、地域の秩序ある土地利用を図るため、協働により利用計画の研究を進めます。

⑦地域づくりの拠点としての自治センターの大規模改修

地域自治センターは、総合支所機能に加え地域コミュニティ活動の拠点としての利便性が大切です。

行政と地域住民との協働のまちづくりを推進するため、豊殿地域自治センターの大規模改修に取り組みます。



稲倉の棚田

(5) 塩田地域



ア 地域特性と発展の方向

塩田地域は、数多くの史跡・文化財の集積、塩田平の田園風景、更には別所温泉、と豊富な資源に恵まれています。

豊富な資源を見つめ直し、貴重な財産を生かしていくために観光を始め農林業等多様な産業間の連携や地域内外の交流を促進し、歴史・自然・生活が調和した交流拠点のまちづくりを進めます。



安楽寺八角三重塔

イ 地域まちづくり方針

①地域コミュニティ施設の整備

地域自治センターは市役所の支所機能に加え、自治会や地域内各種団体が集い、まちづくりを推進するための拠点としての機能を併せ持つことを基本に、塩田地域自治センター・塩田公民館などの機能を含めた複合施設を設置し、地域に密着した活動拠点を整備します。

②地域特性を生かした観光の推進

塩田地域は、これまで培われてきた歴史と文化、美しい自然と素朴な農村風景など、多

くの観光資源に恵まれています。これらの観光資源をより生かすために、別所温泉を基点とした史跡や文化財を結ぶ循環道路の整備、点在する溜池を巡る遊歩道の整備、更に景観に配慮した案内看板や観光ボランティアの育成など、観光ルート・案内体制の整備を進め、全国に親しまれる、世界遺産にも登録可能な観光地の実現を目指します。

また、地域の足であるとともに重要な観光資源でもある上田電鉄別所線の存続のための活動を地域課題として、積極的に取り組みます。

③緑農ゾーンの整備促進

恵まれた自然環境の保全と穀倉地帯である塩田平の農業基盤の確保を図るため、地域内で組織されている営農活性化組合の充実を図るとともに、一部で組織され活動が始まっている営農組織の法人化を拡大し、効率的な農地利用により収益性の向上に努めます。

また、里山や遊休農地を利用した都市と農村の交流活動を推進し「食」と「農」を結ぶ施設や農林業体験施設の整備を進めるとともに、水源涵養をはじめ、森林レクリエーションなどへの対応や観光資源でもある松茸山の保全を含めた森林整備を進めます。

④大学・研究施設と地域社会の交流の促進

大学・研究施設が集積している立地条件を生かし、大学、学生、研究機関、地域諸団体との意見交換会の開催や協議会の設置などを通じて、これら大学や研究施設と地域社会、地域産業界との連携体制の整備を進め、地域産業の活性化、安定した就労、若者が定住できるまちづくりを進めます。

周辺の交通アクセスの円滑化を図り、さまざまな分野の人たちが、わがまちの研究施設として集えるような、地域になじみ深い交流拠点づくりに努めます。

⑤計画的な土地利用の推進

塩田地域の恵まれた自然環境、田園風景を後世まで残していくために、地域の合意に基

づく適切な土地利用計画をもとに、都市的発展を促す区域と農業的に利用する区域を区分し、秩序ある土地利用調整を進めます。

都市的発展を促す区域においては地域資源と景観に配慮した自然と調和のとれた土地利用を進めるとともに、地域住民の暮らしの利便性向上に努めます。

⑥健康で明るい生活を営むまちづくり

地域コミュニティ施設や全面改築される塩田中学校を、住民が自己実現を図ることができる生涯学習や芸術・文化活動のよりどころとして位置付け、地域住民の主体的活動により、個性ある地域文化の創造を図ります。

また、学校体育施設の開放などにより、健康づくりに取り組むことができるよう、スポーツに親しむ施設整備や環境づくりを進めます。

⑦安心・安全で快適な生活環境の実現

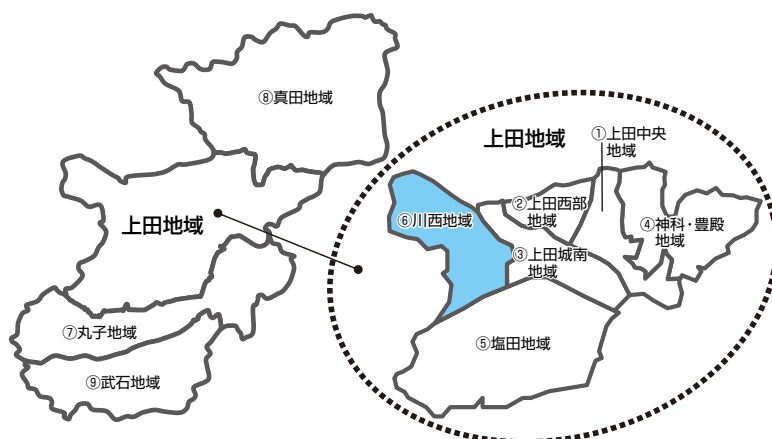
生活道路から通過交通車両をできるだけ少なくするため、都市環状道路を含めた市街地と塩田地域を結ぶ幹線道路網の整備や既存道路の歩道整備を計画的に進め、安全で快適な地域内交通の実現を目指します。

また、資源リサイクル、環境保全型農業、省資源対策に取り組み、地域特性や景観を生かした農村型エコタウンを創造することにより、地域住民が安心して快適に暮らせるまちづくりを目指します。



塩田平を走る別所線電車

(6)川西地域



ア 地域特性と発展の方向

川西地域は、豊かな自然に包まれた中で、高齢者や子どもなど弱い立場の人を大切にしながら、更に明るく住みよいまちにするため、皆で努力している地域です。

少子高齢化が進む中、今後も森林、河川、田畑に囲まれた美しい風景を守り、だれもが住みやすく、また、住んでみたくなる環境づくりを推進することにより、自然と人との調和がとれ、快適な住環境が整った地域づくりを進めます。



自然保護活動（ビオトープ体験 岡地区）

イ 地域まちづくり方針

①地域自治センターの早期建設

行政の窓口である支所機能、地域住民の交流の核としての公民館、子どもたちの放課後のよりどころである子ども館などからなる複合施設を早期に建設し、すべての住民が気軽に集い、学び、楽しめる場所を提供するとともに、そこを拠点として、行政と住民の協働による地域づくりを進めます。

②自然保護活動の推進

恵まれた自然環境を後世に伝えていくため、既に活動している自然・環境保護団体やボランティア団体等と連携し、自然との共生を前

提にしつつ、水資源の確保・自然災害防止に重要な役割を果たしている森林の保護育成や水辺の整備を始めとする自然保護のための取組を更に充実させ、また、一体的に進めていきます。

③住む人にやさしく快適な環境づくり

この地域は、田畑や川などの自然が住民生活に深く結びついています。まず、これらを大切に取る取組が必要です。

更に、だれもが明るく楽しく、また、弱い立場の人でも安心して暮らせるためには、生活用品の購入や高齢者等の交通手段の確保等、日常生活を送る上での利便性を向上させる必

要があります。

また、当地域においては、特に保健、医療、福祉サービスの充実を図り、また、防犯組織の整備を進め、地域ぐるみで応援していく体制作りも必要です。こうした安全・安心で住みよいまちづくりのための仕組作りを進めます。

④農業を主体とした産業の振興

田畑、森林を多く抱える当地域ですが、製造業を始めとする多くの企業も進出し、地域の雇用を生み出しています。

耕作放棄地の有効利用等に努め、また、優良農地の保全を進めることにより、基幹産業である農業の発展を目指すと同時に、地域の雇用を作り出す商工業の振興も図っていきます。

⑤地域ぐるみでの子育て支援の推進

社会の変化に伴い、子どもたちの日常生活環境も大きく変化していますが、当地域の子どもたちも例外ではありません。

地域の子どもたちを地域で守り育てるため、住民すべてによる子育て支援活動に取り組みます。

特に、公民館、関係団体との連携、高齢者の積極的な参画を核にして、子どもたちの健全育成を進めます。

⑥交流・体験を中心に据えた地域興しの展開

当地域では、都市部の子どもたちとの山村交流事業を実施しており、軌道に乗りつつあります。

今後、農林業体験事業など事業内容を拡大し、地域全体で取り組んでいきます。

そのために、誘客活動とともに、さらなる湯を始めとする観光資源の整備や農地の有効活用を進め、また、専門的な分野での協力体制を構築するために、活性化組合など各種団体との連携の強化を図っていきます。

⑦災害に強いまちづくりの推進

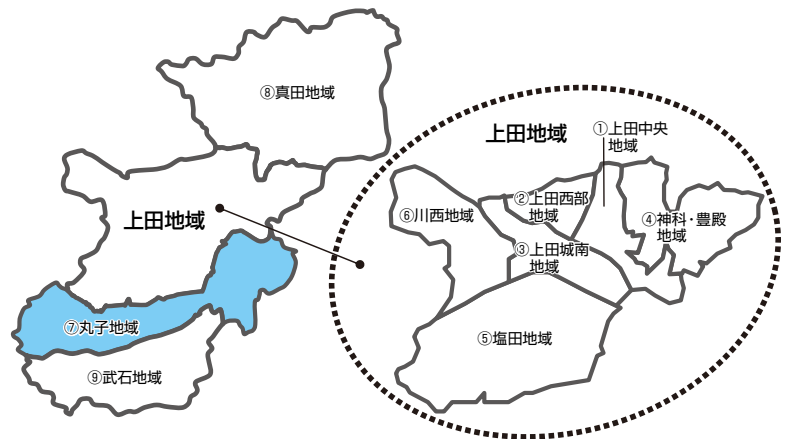
周囲を森林に囲まれ、急流な河川や傾斜地が多い地形のため、毎年のように土砂災害に襲われるなど、自然災害は、住民が望む安全な生活に対する重大な脅威となっています。

土砂災害に限らず、あらゆる災害から地域を守るため、行政等関係機関と協力して、災害が起きてからの対応にとどまらず、未然に防ぐための整備についても研究し、自然とのバランスや環境との調和に配慮した、災害に強いまちづくりを進めます。



都市部の子どもたちとの「山村交流事業」

(7)丸子地域



ア 地域特性と発展の方向

丸子地域は、製造業の集積地として上田市の産業振興に大きく貢献している地域です。地域内に集積している産業資源や技術力を生かし、産業の活性化と雇用を促進することで、これからの上田市の発展を支えていきます。

また、福祉の充実や生活環境の整備によって職住近接のゆとりある生活空間を形成するとともに、丸子温泉郷や豊かな自然・文化を生かすことで、心和む健康の里としての機能や、生涯学習の里としての機能を担っていきます。



鹿教湯温泉「溪流足湯」

イ 地域まちづくり方針

①軽快な交通ネットワークの整備

国道 152 号と国道 254 号が通る丸子地域は交通の要所であるため、大型車の交通量が多く、引き起こされる騒音や渋滞によって住環境などが悪化しており、また、国道 254 号は代替路線や緊急時の迂回路がないといった課題もあります。

平井寺トンネルの早期無料化や国・県道の整備を国・県に働きかけるとともに依田川左岸連絡道路や上田地域都市環状道路等の道路整備を進め、地域内を通過する車両の分散で騒音や渋滞を減らすことによって、安心・安

全な環境の構築を目指すとともに、人・物・情報の循環と地域外交流の促進を支えていきます。

②健康×観光×自然＝交流人口の拡大

豊かな自然環境に加え、丸子温泉郷といった観光資源や医療機関を中心とした健康づくりの環境に恵まれています。また、信州国際音楽村周辺においては、住民の創意と工夫のもとに音楽と自然とが調和した公園づくりが進められています。

更に、アメリカ合衆国ブルームフィールド市郡との友好提携やアップウィズピープルへ

のかかわりなど、国際親善の経験と実績が丸子地域には蓄積されています。

こうした丸子地域特有の資源を最大限に生かし、世界を視野に入れた交流人口の拡大に取り組んでいきます。

③新たな産業ブランドの創出

丸子地域は依田窪地域の玄関口としての役割を担うため、地域内商店街へのゆとり空間の創出や、顧客ニーズに合わせた商業経営ができるよう商業の集積を行うとともに、後継者の育成を支援していきます。

陣場台地ではその土壌の特性を生かし、加工用ブドウ畑の造成を今後も推進するとともに周辺環境の整備を進めることによって、新たな産業ブランドの創造を目指し、農業と観光、商業の融合を図りながら上田市の魅力を高めることにつなげていきます。

④生涯学習活動拠点の充実と新図書館の整備

生涯学習の拠点として、丸子文化会館や信州国際音楽村などの充実を図ります。

更に、生涯学習などの市民活動からビジネス活動までさまざまな要望に応えることのできる、人・物・情報が行き交う新図書館の整備を進めます。新図書館では従来の図書館機能を充実させるだけでなく、地域に根ざした資料・情報の収集と発信を行います。また、新図書館に集う人的交流により生み出されるネットワークを生かし、地域に目を向けたさまざまな活動を促進することで、丸子地域及び市全域の活性化を図っていきます。



陣場台地ワイン用ぶどうの収穫風景

⑤可能性を秘めた雇用・居住・福祉の拠点整備

カネボウ丸子工場跡地は、旧丸子町土地開発公社（現上田市開発公社）が代行買収し、平成21年度までの計画的な取得を続けています。

この広大な土地の活用については、新たなにぎわいと憩いの場として、雇用・居住・福祉において丸子地域及び市全域の拠点となるよう、住民の意見を聴きながら整備を進めていきます。

⑥未来型産業の振興と起業マインドの育成

新たな地域産業の発展のためには、新技術の開発や未来型の産業化、新規企業の参入及び起業が必要です。

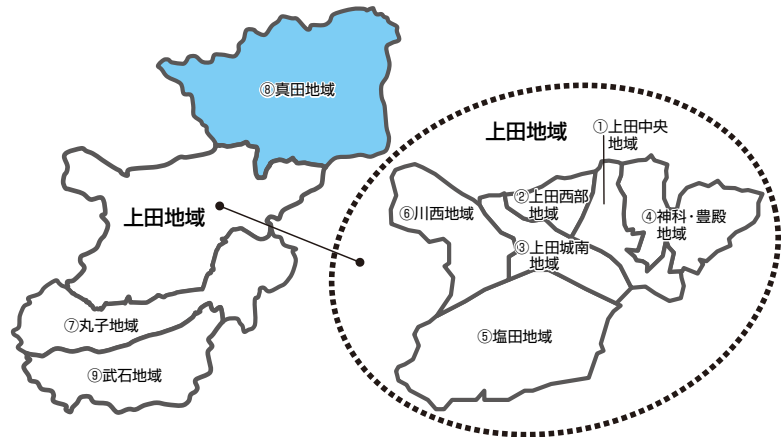
神の倉工業団地や遊休地等を活用して企業誘致を進めるとともに、地域の繁栄を支えてきた工業については、新たな技術の高度化や企業間及び産学官の連携により振興を促進します。

⑦自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり

多様な機能を持つ森林や里山を保全するとともに、潤いをもたらす依田川・内村川の水辺周辺の環境整備を図り、ウォーキングロードや親水公園など健康づくりと憩いの場を創出します。

また、次世代を担う子どもたちを安心して産み、育てられる環境整備を促進し、地域ぐるみで子どもたちを守り育てる環境づくりや、地域が一体感のもてるコミュニティづくりを進めるなど、市民との協働による地域づくりを目指します。

(8) 真田地域



ア 地域特性と発展の方向

真田地域には、自然環境に恵まれた真田氏発祥の郷としての歴史に培われた数多くの資源と、菅平高原に代表される若者から高齢者まで幅広い世代をひきつけるスポーツリゾートとしての特性があります。地域の豊かな自然環境を活用しながら保全し、大切に後世に伝えるとともに、市全域の大きな枠組みにおいて、これら魅力的な資源と特性を連携させた地域の振興を図り、交流人口の拡大につなげていきます。

また、福祉施設も多く点在し、地域で支えあう福祉活動も盛んに展開されています。今後も生活環境の整備を進め、市街地近郊の魅力ある居住空間の形成を目指すとともに、福祉と健康の里として、住みやすく潤いのあるまちづくりを進めます。



真田氏記念公園

イ 地域まちづくり方針

① 創意と工夫の地域づくりの推進

自然や歴史・文化と調和した真田地域らしさを、新市のもつ多様な個性の一つとして際立ったものにしていくため、住民自らの手によって地域の住環境整備を実現する事業を積極的に推進し、地域の連携やふるさと意識の醸成を図ります。

また、これまで真田地域で行ってきた「地域づくり委員会」を継続発展させ、地域のさまざまな団体と連携する、市民との協働による住み

やすく潤いのあるふるさとづくりを進めます。

② 地域情報化の推進

災害等緊急時の情報収集や行政情報の伝達、更に地域内の情報の受・発信の手段を将来にわたって確保・充実させ、地域内での情報を共有する体制を確立していくとともに、地域イントラネットなど高度情報社会に対応できる高速情報通信基盤の整備による地域ネットワークの構築を図り、生活の利便性の向上、更には観光その他の地域産業の振興にも結び

つけていきます。

③魅力ある農業の推進

真田地域の自然環境と調和した農業生産基盤整備を推進し、低コストで生産性の高い農業経営の確立に努め、特産加工品の開発や地域ブランドの確立に取り組み、持続的な農業を目指します。また、優良農用地の遊休荒廃地化に歯止めをかけるため、農地の有効活用と集積化を推進し認定農業者の育成強化に努めるとともに、小規模農家の経営安定を支援し、後継者や新規就農者の拡大を図ります。

更に、観光産業と連携を図りながら、農業体験やグリーンツーリズムの推進により都市等との交流を積極的に進めるとともに、直売所での農産物の販売やレストラン・旅館・学校など地域への食材の提供による地産地消を促進し、魅力ある農業への新たな展開を進めます。

④特色ある観光の振興

既存の観光資源の活用や新たな観光施設の整備に積極的に取り組みながら、市域全体での連携を図り、交流人口の拡大に貢献していきます。

オリンピックで活躍する選手も合宿に訪れる、各種スポーツ合宿のメッカである菅平高原においては、サニアパークなどの活用も含めスポーツを生かした観光客の誘致策を更に推進するとともに、真田氏発祥の郷としての歴史を核とした観光を推進し、地域の資源が連携した特色ある観光の振興に取り組みます。

また、年間を通じての誘客を進めるため、トレッキングや里山の散策など豊かな自然環境を活用した観光、更には地域の生活・文化・歴史などに触れる参加・体験型観光を推進するための条件整備を図り、観光産業の活性化に積極的に取り組みます。

⑤地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備

地域の発展のためには、さまざまな分野での交流を促進する基盤となる交通ネットワークの整備が求められています。国道144号や406号などの幹線交通網と日常生活に密着した生活

交通網の一体的な整備と、相互の連携を進めることにより、地域経済の活性化を促進し、交流人口の拡大を図るとともに魅力ある居住空間の形成を目指します。

中でも、新市の一体感の醸成と安全で快適な通勤通学を実現するため、国道144号上野バイパスの建設は、地域住民総意の要望となっており、早期整備に向けて積極的に取り組みます。また、住民生活の利便性の向上が図られるよう、公共交通機関の確保・充実に努めます。

⑥安心して暮らせる地域づくり

真田地域では、地域や家庭で手と手を取り合う地域ぐるみの福祉を推進し、健康と福祉のまちづくりに取り組んできています。

少子高齢社会を迎え、求められる地域医療体制の充実、安心して子育てができる環境整備や地域みんなで支え合う福祉・教育体制の確立に努めるとともに、保健、医療、福祉、教育の各分野の相互連携を図り、地域住民のだれもが将来にわたり健康で安心して暮らせる地域づくりを目指します。

⑦地域に根ざした生涯学習と生涯スポーツの促進

世代を超えた多くの人々が参加できる身近な芸術・文化活動や主体的な創造活動によって地域文化を高めるため、ひとり一学習を目標とした学習情報の提供や支援を行うとともに、図書館等の整備による住民自らが学ぶ環境づくりを積極的に推進していきます。また、生涯を通じて健康で豊かな日々を過ごすため、だれもが自分に合ったスポーツに親しむことができる環境整備に取り組みます。



夏の菅平高原（サニアパーク）

(9) 武石地域



ア 地域特性と発展の方向

武石地域は、美ヶ原高原と、そこに連なる雄大な自然に抱かれた地域です。心安らぐ田園風景を大切な財産としながら、長い間はぐくんできた地域の連帯と細やかな住民福祉を大切にしてきました。恵まれた自然と安らかで豊かな生活を守り育て、それらかけがえの無い環境を生かした事業を展開し、将来にわたって、住んで良かった、訪れて良かったと実感できる地域づくりを進めます。



美しの塔

イ 地域まちづくり方針

① 住みよい地域づくりの推進と地域情報化の展開

武石地域は、上田市の中で少子高齢化が最も進む地域であり、このことは、自治会、消防などコミュニティ活動の減退、農林業・商工業の衰退などの大きな問題となってきています。定住人口の増加は地域の大きな課題です。

若者定住施策や子育て支援施策、デマンド交通など、武石地域の特色ある事業を充実し、合わせてUターン・Iターンを支援して地域人口の増加を図ります。長年にわたり培ってきたコミュニティ活動を大切に維持・発展させるとともに、自主的な活動を展開する地

域づくり団体の育成を図り、それらの団体との協働により、安全で魅力的な地域づくりに取り組みます。

また、地域コミュニティの維持・発展のために重要な、身近な地域情報システムの整備や、情報化社会に対応した基盤整備を図ります。

② 地域をつなぐ道路交通網の整備

武石地域に居住し他地域に通勤通学する市民は多く、武石から丸子・上田市街をはじめとする他地域への道路交通網の整備は、最も住民要望の強い課題です。

交通の利便と時間的距離の短縮は武石地域だけでなくエリアを越えた課題であるため、

地域内の生活道路の整備を図るとともに、市内他地域や近隣市町村と連携を深めながら整備を推進していきます。

③魅力ある農林業の創出と商工業の振興

専業農家の数は減少したものの、市内でも有数の畜産を始め、野菜、米、花卉等の農業生産は武石地域の住民生活に大きく影響しています。それを踏まえ、地域の特色である農作業受託組織や地域営農組織、担い手農家、地産地消推進団体などを支援・育成し、魅力あふれる農林業を創出していきます。また、農地・水資源の保全や森林の育成を図り、祖先から引き継がれた武石の田園と森と清らかな水を守ります。更に、地域の活性化に大きな役割を果たしている商工団体等を通じて、生活に密着した商工業を振興し、活力ある地域の創造を図ります。

④都市・農村交流と広域的な観光の展開

豊かな自然や観光資源を生かして地域の活性化を図ります。

友好提携が新市に引き継がれた東京都練馬区との交流を拡大するとともに、都市生活者を対象とした農業体験や自然体験、スポーツ・レクリエーションの提供による観光の充実を図ります。また、高山植物の保全・再生の研究や、高原を拠点としたイベントの開催など、松本市や長和町とも連携して美ヶ原高原の魅力を発信し誘客に努めます。更に、広域観光を実現するための関係幹線道路の整備を促進し、上田・丸子・真田地域の観光資源と有機的に結びついた観光事業を展開します。

⑤地域に根ざした医療・保健・福祉・介護の充実

武石地域は、診療所・健康センター・地域包括支援センター・デイサービスセンター・社会就労センターなど、医療・保健・福祉・介護が一体となった潤いと温かみのある地域づくりを進めてきました。

今後も地域に根ざしたきめ細かいサービスを提供するため関係機関の充実と連携を図りながら、在宅医療・福祉の要である武石診療所と、地域の二次医療と救急医療の役割を担う

依田窪病院の充実を図り、安心して暮らせる地域の実現を目指します。

⑥地域の特性を生かした教育の推進とスポーツの振興

人生の質を高める生涯学習・生涯スポーツの充実に努めます。

自然や伝統・文化に学び、そこに暮らす人々を大切に思い、自らと地域に誇りを持ち、未来に受け継いでいく意識を高めます。そのために、環境教育や食育、伝統や文化財など地域を教材にした教育、自然体験教育などを幅広く実践します。また、地域に定着している体育活動の振興を図るため、スポーツ団体や行事を支援し、スポーツに親しむ市民の拡大を図り、生涯スポーツの充実と健康増進に努めます。

⑦明日を担う子どもたちの教育施設、子育て支援施設の整備

子育て支援と放課後児童対策を中心とした拠点施設の整備は、通学エリアが広範で児童とその親の交流が生まれにくい武石地域の大きな課題です。そのため、年齢や家族状況にとらわれない児童対策やニーズに合わせた設備など、地域の特性を考慮した施設整備を、関係機関や団体と協議しながら具体化していきます。

また、地域の明日を担う子どもたちに最適な教育環境を提供するため、関係施設の整備を進めていきます。



武石体育祭

